

名阪近鉄バス国民保護に関する業務計画

平成18年3月31日
名阪近鉄バス株式会社

目 次

第 1 章 総則

第 1 節 計画の目的

第 2 節 基本方針

第 2 章 平素からの備え

第 1 節 活動体制の整備

第 2 節 関係機関との連携

第 3 節 旅客等への情報提供の備え

第 4 節 警報又は避難措置の指示等の伝達体制の整備

第 5 節 管理する施設等に関する備え

第 6 節 運送に関する備え

第 7 節 備蓄

第 8 節 訓練の実施

第 3 章 武力攻撃事態等への対処

第 1 節 武力攻撃事態等対策本部等への対応

第 2 節 活動体制の確立

第 3 節 安全の確保

第 4 節 関係機関との連携

第 5 節 旅客等への情報提供

第 6 節 警報の伝達

第 7 節 施設の適切な管理及び安全確保

第 8 節 運送の確保

第 9 節 避難・救援に関する支援

第 10 節 安否情報の収集

第 11 節 応急の復旧

第 4 章 緊急対処事態への対処

第 1 節 活動体制の確立

第 2 節 緊急対処保護措置の実施

第 5 章 計画の適切な見直し

第 6 章 その他・資料編

災害対策規程

災害対策とその処置について（営業所）

第1節 計画の目的

第1条 この名阪近鉄バス国民保護に関する業務計画（以下「計画」という。）は、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（平成16年法律第112号。以下「国民保護法」という。）第36条第1項及び第182条第2項の規定に基づき、名阪近鉄バス株式会社（以下「当社」という。）の業務に係る武力攻撃事態等（武力攻撃事態及び武力攻撃予測事態をいう。以下同じ。）における国民の保護のための措置（以下「国民保護措置」という。）及び緊急処理事態における緊急対処保護措置の的確かつ迅速な実施に資することを目的とする。

第2節 基本方針

第2条 武力攻撃事態等において、国民保護法その他の法令、国民の保護に関する基本指針平成17年3月25日閣議決定）及びこの計画に基づき、国民の協力を得つつ、他の機関と連携協力し、その業務に関する国民保護措置の的確かつ迅速な実施に万全を期するものとする。

2 国民保護措置の実施に当たっては、国民保護法その他の法令、「国民の保護に関する基本指針」及びこの計画に基づき、自らの業務に係る国民保護措置を実施するものとし、次の点に留意するものとする。

（国民に対する情報提供）

第3条 インターネット等の広報手段を活用して、国民に迅速に国民保護措置に関する情報を提供するように努めるものとする。

（関係機関との連携の確保）

第4条 国民保護措置に関し、平素から関係機関との連携体制の整備に努めるものとする。

（国民保護措置の実施に関する自主的判断）

第5条 国民保護措置を実施するに当たっての実施方法等については、国及び地方公共団体から提供される情報を踏まえ、武力攻撃事態等の状況に即して自主的に判断するものとする。

（安全の確保）

第6条 国民保護措置の実施に当たっては、国及び地方公共団体の協力を得つつ、当社社員のほか、当社の実施する国民保護措置に従事する者の安全の確保に配慮するものとする。

（高齢者、障害者等への配慮及び国際人道法の的確な実施）

第7条 国民保護措置の実施に当たっては、高齢者、障害者等に対する配慮を行うものとする。

2 特殊標章の使用等に当たっては、国際的な武力紛争において適用される国際人道法の的確な実施を確保するものとする。

(対策本部長の総合調整)

第 8 条 対策本部長による総合調整が行われた場合には、その結果に基づき、所要の措置を迅速かつ的確に実施するよう努めるものとする。

2 内閣総理大臣により避難住民の運送等に関し指示が行われた場合には、国民保護法に基づき所要の措置を的確かつ迅速に実施するものとする。

第 2 章 平 素 か ら の 備 え

第 1 節 活動体制の整備

(国民保護連絡調整会議の整備)

第 9 条 当社の業務に係る国民保護措置及び緊急対処保護措置に関する事務について社内の連絡及び調整を図るための体制を整備するものとする。

(情報連絡体制の整備)

(1) 情報収集及び連絡体制の整備

第 1 0 条 当社が管理する施設等の被災の状況、国民保護措置の実施状況、運行状況等の情報を迅速に収集・集約できるよう、連絡網、連絡方法、連絡手順等の必要な事項についてあらかじめ定めるものとする。

2 夜間、休日においても、的確に連絡できる体制の整備に努めるものとする。
また、武力攻撃災害により連絡担当者が被害を受けた場合等においても社内の連絡を確実に進めるよう、障害発生時に備えた情報収集・連絡体制の整備に努めるものとする。

(2) 通信体制の整備

第 1 1 条 武力攻撃事態等において、迅速かつ確実な連絡が行えるよう、関係機関との連携に配慮しつつ、必要な通信体制を整備するものとする。

2 通信体制の整備に当たっては、武力攻撃災害により通信手段が被害を受けた場合や停電の場合等においても、確実に通信が行えるよう体制の整備に努めるものとする。

3 平素から国民保護措置に必要な通信設備の点検を定期的実施するものとする。

(緊急参集体制及び活動体制の整備)

第 1 2 条 武力攻撃事態等において、国民保護措置を的確かつ迅速に実施するための当社における必要な体制を迅速に確立するため、関係社員の緊急参集等についてあらかじめ必要な事項を定め、関係社員に周知するものとする。必要な事項を定めるに当たっては、交通の途絶、社員又は社員の家族の被災等により職員の参集が困難な場合等も想定しつつ、事態の状況に応じた参集基準、連絡手段及び参集手段の確保など職員のサービスの基準に関し必要な事項も併せて定めるものとする。

- 2 緊急参集を行う関係社員については、武力攻撃事態等により交通機関が途絶することを考慮し、複数の参集経路、移動方法等を事前に確認しておくものとする。
- 3 武力攻撃事態等が長期に及んだ場合に備え、社員の交代要員の確保等に関する体制を考慮するものとする。
- 4 防災のための備蓄を活用しつつ、非常用発電機及び燃料の確保、食料、飲料水、医薬品等の備蓄又は調達体制の整備等に努めるものとする。

(特殊標章の適切な管理)

- 第13条 国土交通大臣が平時より特殊標章等の使用の許可を行う場合であって、あらかじめ国土交通大臣より特殊標章等の使用の許可を受けておく必要がある場合には、国土交通大臣に対して使用の許可の申請を行い、適切に管理を行うものとする。

第2節 関係機関との連携

- 第14条 平素から関係省庁、地方公共団体、指定公共機関等の関係機関との間で、国民保護措置の実施における連携体制の整備に努めるものとする。

第3節 旅客等への情報提供の備え

- 第15条 武力攻撃事態等において、運行状況等の情報を、車内放送、当社ホームページ等を活用して、旅客等に対し適時かつ適切に提供できるよう、必要な体制を整備するものとする。
- 2 情報提供の体制の整備に当たっては、高齢者、障害者、その他の情報伝達に際し援護を要する者に対しても、情報を伝達できるよう努めるものとする。

第4節 警報又は避難措置の指示等の伝達体制の整備

- 第16条 国土交通大臣から警報又は避難措置の指示の通知を受けた場合又は関係する県知事から避難の指示について通知を受けた場合において、社内等における警報の伝達先、連絡方法、連絡手順など必要な事項を定めるものとする。

第5節 管理する施設等に関する備え

- 第17条 当社が管理する施設等について、武力攻撃事態等において、避難者及び帰宅者による集中、殺到又は混乱並びに負傷者の発生に備えて、的確かつ迅速な状況判断により、災害や事故への対応に準じて適切な旅客誘導を図るための体制の整備に努めるものとする。
- 2 武力攻撃事態等において、当社が管理する施設及び設備の応急の復旧を行うため、自然災害に対する既存の予防措置を有効に活用しつつ、あらかじめ体制及び資機材を整備するよう努めるものとする。

- 3 当社が管理する施設が関係する県知事により避難施設に指定された場合には、避難住民の受け入れが適切に行われるよう必要な体制の整備に努めるものとする。

第6節 運送に関する備え

- 第18条 国及び地方公共団体が、避難住民の運送を実施するための体制の整備を行うに当たっては、連絡先の提供、輸送力及び輸送施設に関する情報の提供、地方公共団体との協定の締結など必要な協力を行うよう努めるものとする。
- 第19条 武力攻撃事態等発生時に人員の緊急輸送が円滑に実施されるよう、国や地方公共団体と連携しつつ、これらの緊急輸送に関わる実施体制の整備、異なる輸送モードを含めた他の指定公共機関等との協力体制の構築に努めるものとする。

第7節 備蓄

- 第20条 国民保護措置のための備蓄と防災のための備蓄とを相互に兼ねることができるよう、防災のための備蓄の品目、備蓄量、備蓄場所、物資及び資材の供給要請先等の確実な把握等に努めるものとする。
- 2 武力攻撃事態等が長期にわたった場合においても、国民保護措置の実施に必要な物資及び資材を調達することができるよう、地方公共団体や他の事業者等との間で、協力が図られるよう努めるものとする。

第8節 訓練の実施

- 第21条 平素より、的確な国民保護措置の実施が可能となるよう社内における訓練の実施に努めるとともに、国又は地方公共団体が実施する国民保護措置についての訓練へ参加するよう努めるものとする。また、訓練の実施に当たっては、実際の通信機器を使用するなど実践的な訓練となるよう努めるものとする。
- 2 国民保護措置と防災のための措置との間で共通する訓練については、これらを実施する際に、相互に応用できることを示して、国民保護措置についての訓練と防災訓練とを有機的に連携させるよう配慮するものとする。

第3章 武力攻撃事態等への対処

第1節 武力攻撃事態等対策本部等への対応

- 第22条 武力攻撃事態等への対処に関する基本的な方針（以下「対処基本方針」という。）が定められ、政府に武力攻撃事態等対策本部（以下「政府対策本部」という。）が設置された場合には、政府対策本部を中心とした国民保護措置の推進を図るものとする。
- 2 国土交通大臣から政府対策本部又は国土交通省武力攻撃事態等対策本部の

設置について連絡を受けたときは、警報の通知に準じて、社内等に迅速にその旨を周知するものとする。

第2節 活動体制の確立

(対策本部の設置等)

第23条 政府対策本部が設置された場合には、必要に応じて、名阪近鉄バス国民保護対策本部(以下「対策本部」)を設置する。

2 対策本部は、社内における国民保護措置などに関する調整、情報の収集、集約、連絡及び社内での共有、広報その他必要な総括業務を実施するものとする。

3 対策本部を設置した時は、国土交通省を通じて政府対策本部に連絡を行うものとする。

4 この計画に定めるもののほか、対策本部の組織及び運営に関する事項については、別に定める「災害対策規程」を準用するものとする。

(緊急参集の実施)

第24条 国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため、別に定める「災害対策規程」を準用するところにより、必要に応じ、関係社員の緊急参集を行うものとする。

(情報連絡体制の確保)

第25条 当社が管理する施設等の被災の状況、国民保護措置の実施状況、運行状況など武力攻撃事態等に関する情報を迅速に収集するものとし、対策本部は、これらの情報を集約し、必要に応じ、国土交通省に報告するものとする。

2 対策本部は、政府対策本部より武力攻撃事態等の状況や国民保護措置を実施するに当たり必要となる安全に関する情報などについて収集を行うとともに、社内での共有を行うものとする。

(通信体制の確保)

第26条 武力攻撃事態等が発生した場合には、直ちに、必要な通信手段の機能確認を行うとともに、連絡のために必要な通信手段を確保するものとする。

2 国民保護措置の実施に必要な通信手段を確保するため、支障が生じた情報通信施設の応急復旧のため必要な措置を講ずるものとする。また、直ちに総務省に支障の状況を連絡するものとする。

3 武力攻撃災害により国民保護措置の実施に必要な通信手段が被害を受けた場合や停電の場合等においては、速やかに応急の復旧を行うものとする。

第3節 安全の確保

第27条 国民保護措置を実施するに当たっては、その内容に応じ、国又は地方公共団体から武力攻撃の状況その他必要な安全に関する情報の提供を受けるほか、緊急時の連絡の体制及び応援の体制の確立等の支援を受けるものとし、これらを活用し、当社社員のほか、当社の実施する国民保護措置に従事す

る者の安全の確保に十分に配慮するものとする。

- 2 国民保護措置を安全に実施するに当たって、国民保護法第158条第1項に基づく特殊標章及び身分証明書を使用する場合には、国土交通大臣の許可に基づき適切に使用するものとする。

第4節 関係機関との連携

- 第28条 政府対策本部、関係省庁、地方公共団体、指定公共機関など関係機関と緊密に連携し、的確な国民保護措置の実施に努めるものとする。

第5節 旅客等への情報提供

- 第29条 運行状況等の情報を車内放送、当社ホームページ等を活用して、旅客等に対し適時かつ適切に提供するように努めるものとする。

第6節 警報の伝達

- 第30条 国土交通大臣より警報の通知を受けた場合には、別に定める「災害対策規程」を準用するところにより、社内における迅速かつ確実な伝達を行うものとともに、施設利用者への伝達に努めるものとする。

第7節 施設の適切な管理及び安全確保

- 第31条 国土交通省からの指導等により当社が管理する施設について、安全の確保に十分配慮の上、巡回の強化など安全確保のための措置を講ずるように努めるものとする。
- 第32条 当社が管理する施設等について、施設利用者や旅客の誘導が必要となった場合には、的確かつ迅速な判断により災害や事故への対応に準じて、これらの者の適切な誘導に努めるものとする。

第8節 運送の確保

(避難住民の運送)

- 第33条 国土交通大臣から避難措置の指示の通知を受けた場合、関係する県から避難の指示の通知を受けた場合には、別に定める「災害対策規程」を準用するところにより、社内における迅速かつ確実な伝達を行うものとする。
- 2 関係する県により避難の指示が行われる場合には、関係する県と緊密に連絡を行い、必要に応じて、関係する地方自治体の長より避難住民の運送の求めが行われることに備え、輸送力の確保など避難住民の運送の実施に必要な体制を整えるものとする。
 - 3 市町村より避難実施要領の通知があった場合には、社内における共有を行うほか、その内容に応じ、必要な体制の確保に努めるものとする。
 - 4 地方公共団体の長より避難住民の運送の求めがあった場合には、資機材の故障等により当該運送を行うことができないなど正当な理由がない限り、

これらの運送を的確かつ迅速に行うものとする。

- 5 避難住民の運送の実施に当たっては、当該運送の求め等を行った者より提供される安全に関する情報等に基づき、当該運送に従事する社員に危険が及ぶことのないよう安全の確保に十分配慮するものとする。

(運送の維持)

- 第34条 運送に必要な施設の状況確認、旅客施設における案内放送、旅客誘導等による秩序の維持等、武力攻撃事態等において旅客を適切に運送するために必要な措置を講ずるものとする。
- 2 運行に障害が生じた場合には、必要に応じ、国土交通省など関係機関に当該障害について連絡を行うとともに、国土交通省など関係機関の協力を得つつ、他の運送事業者である指定公共機関等と連携し、代替輸送の確保に努めるものとする。

第9節 避難・救援に関する支援

- 第35条 当社が管理する施設であって、あらかじめ関係する県知事より避難施設として指定されたものにおいて避難住民の受入れを行うこととなった場合には、当該避難施設の開設のために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

第10節 安否情報の収集

- 第36条 地方公共団体が行う安否情報の収集が円滑に実施できるよう、業務の範囲内で、照会に応じて安否情報の提供を行うなど、地方公共団体の行う安否情報の収集に協力するよう努めるものとする。
- 2 地方公共団体の行う安否情報の収集に協力する場合には、原則として、安否情報の対象となる避難住民及び武力攻撃災害により死亡し、又は負傷した者の現に所在する地方公共団体の長に安否情報を提供するものとし、当該者が住所を有する地方公共団体が判明している場合には併せて当該地方公共団体の長に対し安否情報の提供を行うよう努めるものとする。

第11節 応急の復旧

- 第37条 武力攻撃災害が発生した場合、管理する施設及び設備に関するもの並びにその業務として行う国民保護措置に関するものについて、安全の確保に配慮した上で、速やかに施設及び設備の緊急点検を実施し、これらの被害の状況等を把握するとともに、迅速に応急の復旧のための措置を実施するよう努めるものとする。
- 2 応急の復旧に当たっては、被害の拡大防止及び被災者の生活確保を最優先に行うよう努めるものとし、当該運送に従事する社員に危険が及ぶことのないよう安全の確保に十分配慮するものとする。
 - 3 応急の復旧のために必要な措置を講ずるに当たって自らの要員、資機材等によっては的確かつ迅速な措置を講ずることができない場合には、必要に

応じ、国に対し、それぞれ必要な人員や資機材の提供、技術的助言その他
応急の復旧のため必要な措置に関し支援を求めるものとする。

4 対策本部は、必要に応じ、被災情報及び応急の復旧の実施状況を国土交通
省に報告するものとする。

第4章 緊急対処保護措置の実施

第1節 活動体制の確立

(名阪近鉄バス緊急処理事態対策本部の設置)

第38条 政府対策本部が設置された場合には、必要に応じて、名阪近鉄バス緊急対
処理事態対策本部(以下「緊急処理事態対策本部」という。)を設置するも
のとする。

2 緊急処理事態対策本部は、社内における緊急対処保護措置などに関する調
整、情報の収集、集約、連絡及び社内での共有、広報その他必要な業務の
総括を実施するものとする。

3 緊急処理事態対策本部を設置した時は、国土交通省を通じて、政府緊急対
処理事態対策本部にその旨を連絡するものとする。

4 この計画に定めるもののほか、本社緊急処理事態対策本部の組織及び運営
に関する事項については、別に定める「災害対策規程」を準用するものと
する。

第2節 緊急対処保護措置の実施

第39条 緊急対処保護措置の実施体制並びに措置の内容及び実施方法については、
この計画の第1章から第3章までの定めに基づいて行うこととする。

第5章 計画の適切な見直し

第40条 適時この計画の内容につき検討を加え、必要があると認めるときは、自主
的にこれを変更するものとし、変更を行った際は、軽微な変更である場合
を除き、国土交通大臣を経由して、内閣総理大臣に報告するものとする。
また、関係する県知事に通知するとともに、公表を行うものとする。

2 この計画の変更に当たっては、この計画の下で業務に従事する者等の意見を聴
く機会を確保するほか広く関係者の意見を求めるよう努めるものとする。

3 この計画を変更するため必要があると認めるときは、関係指定行政機関の
長及び指定地方行政機関の長、地方公共団体の長等並びに指定公共機関及
び指定地方公共機関並びにその他の関係者に対し、資料又は情報の提供、
意見の陳述その他必要な協力を求めるものとする。

第6章 その他・資料編

災害対策規程

災害対策とその処置について(営業所)

災害対策規程

制定 昭和60年10月 1日
改正 平成 2年12月10日
改正 平成18年 3月31日

第 1 章 総 則

(目 的)

第1条 この対策は、異常気象または緊急事態が発生して、バス運行に危険を及ぼすと予想されるとき、ならびに災害が発生したときに適用するものとする。

(定 義)

第2条 異常気象または緊急事態とは、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他異常な自然現象、または大規模な火事、爆発、武力攻撃事態等(武力攻撃事態及び武力攻撃予測事態)などをいう。

(警戒体制の発令)

第3条 業務部長は、異常気象または緊急事態の発生が予想されるときは、警戒体制を発令するとともに、残留する必要人員を各職場に指示し、社長に報告する。

(報告義務)

第4条 警戒体制発令時、各職場においては、次の各項について、速やかに業務部長に報告すること。

1. 職場において警戒体制が完了したとき
2. 最終入庫が終わった場合(泊仕業の電話点呼を含む)
3. 災害が発生したとき、当該災害の状況と、これに対して執られた措置の概要

第 2 章 営業所警戒体制

(警戒区分)

第5条 台風の襲来が予想されるとき、または集中豪雨、大雪などで、バスの運行に支障がでる虞があるときは、営業所警戒体制をとるものとする。

(警戒責任者およびその任務)

第6条 業務部にあっては各営業所長が、観光バス営業部にあっては各支店の支店長が警戒責任者を担当する。警戒責任者は、警戒員を指揮監督する。

(警戒員およびその任務)

第7条 運行を担当する所長は、当該営業所の助役、事務職員および必要乗務員に対し、警戒員として待機を命ずる。警戒員は、災害を未然に防ぐための努力をすること。

なお、必要に応じ、観光バス営業部各支店および業務部運行課若森整備工場においても警戒員を配置すること。また災害が発生した場合、警戒員は速やかに対処すること。

第 3 章 警 戒 体 制

(警戒区分)

第8条 台風の襲来または浸水、豪雪等で相当の被害が予想され、バスの運行に支障混乱をきたす虞のあるときは、警戒体制をとるものとする。

(警戒責任者)

第9条 乗合バス営業部長、観光バス営業部長および業務部長（以下「営業部長」という）が、警戒責任者を担当する。

（災害警戒本部の設置）

第10条 営業部長の所在する営業所を、各部の災害対策本部とする。営業部長は、所属営業所の警戒体制について、必要な指示をするとともに、第4条に準じて営業部長宛報告をすべきことを命ずる。

（警戒員）

第11条 営業部課長もしくは支店長、または営業所長は、営業部所属社員のなかから、警戒に必要な人員を指名し、待機を命ずる。待機を命ぜられた社員の任務は、第7条に準ずる。

なお、業務部運行課若森整備工場においても警戒ならびに不測の事態に備えるため、必要な整備担当者に待機を命ずること。

第4章 対策本部警戒体制

（警戒区分）

第12条 大型台風の襲来もしくは集中豪雨等により、土砂崩壊、洪水、浸水など最悪の被害（激甚災害）が予想されるときは、対策本部警戒体制をとるものとする。

（警戒責任者）

第13条 対策本部警戒体制における警戒責任者は、業務部長とする。警戒責任者は全ての警戒員を指揮監督する。

（災害警戒本部）

第14条 災害警戒本部を業務部運行課名古屋営業所または若森営業所におき、業務部長が常駐し、必要な指示を伝達する。本部要員は、業務部長が業務部に所属する社員から指名するが、必要に応じ業務部以外の社員の応援を求める。

（警戒員）

第15条 対策本部警戒体制における警戒員は、第11条に準ずる。

第5章 警戒員が実施すべき事項

（警戒員が実施すべき事項）

第16条 警戒員が実施すべき事項は次のとおりとする。

1. 乗合バス営業部および業務部においては、必要に応じて現地警戒を行うほか、ターミナルにおいて乗務員の指導、車両の点検等について指示を行う。
2. 観光バス営業部および業務部においては、遠距離を運行しているものおよび外泊する車両について、連絡をとり、運行状況を把握し、必要な指示を与える。
3. 全車入庫後の車庫の警戒について、適切な指示を行い、その人員および警戒体制ならびに異常事態発生時の処置、連絡についての指示を行う。
4. 翌朝の出庫前に、異常の有無を確認のうえ、報告を行うよう指示を与える。

（業務部長が実施すべき事項）

第17条 業務部長は、整備長に対し、工場施設、整備中の車両等の保全に必要な措置をとるよう指示を行う。

第6章 災害発生時の救援体制

（救援体制の種別）

第18条 災害が発生した場合、当該災害の規模その他の状況により、営業部救援体制、対策本部救援体制、全社救援体制をとるものとする。

(救援体制の発令)

第 19 条 業務部長は、災害発生の報告を受けたときは、当該災害の規模その他の状況を判断し、必要があると認めるときは、救援体制を発令するとともに、社長に報告する。

(救援体制組織)

第 20 条 全社救援体制組織は、別表のとおりとする。対策本部救援体制組織、営業部救援体制組織は、全社救援体制組織に準じ規模を縮小した形で、適宜の体制をとるものとする。

(準 用)

第 21 条 全社救援体制は、重大事故発生時の救援体制を準用する。

第 7 章 付 則

(非常災害時の勤務)

第 22 条 警戒待機および災害救援については、就業規則第 105 条の定めるところによるものとする。

災害対策とその処置について（営業所）

1．報告と連絡

営業所長は常に管理区域の状況を把握するように努め、災害が発生し又はその恐れがあるときは、上長並びに関係者間の報告連絡を緊急にすること。

2．警戒配置

営業所長は災害の発生が予測されるときは、その程度に応じ次の基準により警戒配置をすること。

- (1) 広範囲にわたり、非常に大きい災害が予測されるとき
 - イ．各営業所所員、全車両を運用するに十分な乗務員、その他要員の待機
 - ロ．職場長及び日勤助役の宿直待機
 - ハ．車両の分散待避の計画
- (2) 上記に次ぐ程度の災害が予測されるとき
 - イ．営業所は所属車両中、当面必要と判断される両数を運用するに十分な乗務員、その他要員待機
 - ロ．以下(1)に同じ
- (3) 災害時における従業員の非常招集名簿を整備し、招集方法を準備すると共に、災害に際しては退勤中の乗務員といえども、速やかに職場に参集するよう指導しておくこと。

3．異常気象時の措置

- (1) 支配人または営業所長は異常気象に関する警報等により、災害の虞のあることを予知したとき（又はその指示を受けたとき）以下の事項に注意すること。
 - イ．営業車両の運行の中止、運行開始については、業務部長（又は各営業部長の指示に従う外、常時気象情報等に留意して臨機の処置をすること。
 - ロ．本社業務時間外又は緊急の場合には、運行管理者又は運転士の判断により運行の中止、待避若しくは運行の開始の処置を行うこと。
 - ハ．前項の処置を為したる時は、運転士は運行管理者に、運行管理者又はその他の責任者は、その処置状況等をなるべく速やかに業務部長に報告すること。
- (2) 運行管理者は異常気象時又は異常気象が予知されるとき又はその指示を受けたときに出庫を命じる場合には、次に示す事項につき乗務員に適切な指示を与えること。
 - イ．風速が毎秒20米以上の時は出庫を中止するか、万一運行途中風速が20米以上になった場合、又は飛散物で安全運転が困難となった時は、速やかに安全なる場所（物品の飛散の少ない所、突風発生の際の少ない所等）に待避すること。
 - ロ．出水の虞のある場合は、浸水の虞の少ない所に待避すること。
 - ハ．水深30cm以上の浸水箇所では運行してはならない。又30cm以下であってもエンジン関係を損傷しないよう注意徐行すること。
 - ニ．風雪、降雨甚しく又はその他運行に支障ありと認められる時は運転を中止し天候回復し安全運転の見込みができた時、運行を継続する。
- (3) 異常気象時運行管理者は、入、出庫車両の状況を把握し、特に入庫車両数の確認については厳重に管理監督すること。
乗務員に対しては、乗務中異常気象を察知した場合、気象情報に留意する外、

天候又は道路の状況について所定の入庫が不能の場合には、その状況現在地等を速やかに営業所へ報告するよう指導しておくこと。（この場合無理して入庫しようとして事故をおこしてはならない。）

（異常気象時における乗務員の処置は別に定める異常気象時の運行制限処置要領に基づくこと。）

（４）営業所長および整備長は所管の建物、車両の安全をはかるため、下記事項につき注意すること。

イ．電気引込線の接触、摩擦等により短絡事故（ショート）を防止するため安全な措置を講ずること。

ロ．看板、その他飛散の虞あるものについては、予め緊締等によって予防措置を講じておくこと。

ハ．上水道断水の虞れある場合は、予め貯水すること。

ニ．火気については特に注意し、強風中は浴場の使用を中止すること。

ホ．風速20米以上を予測する場合の露天駐車は、車両の前部を風向きに対するよう駐車し、車輪止めをしておくこと。

ヘ．その他必要措置を講ずること。

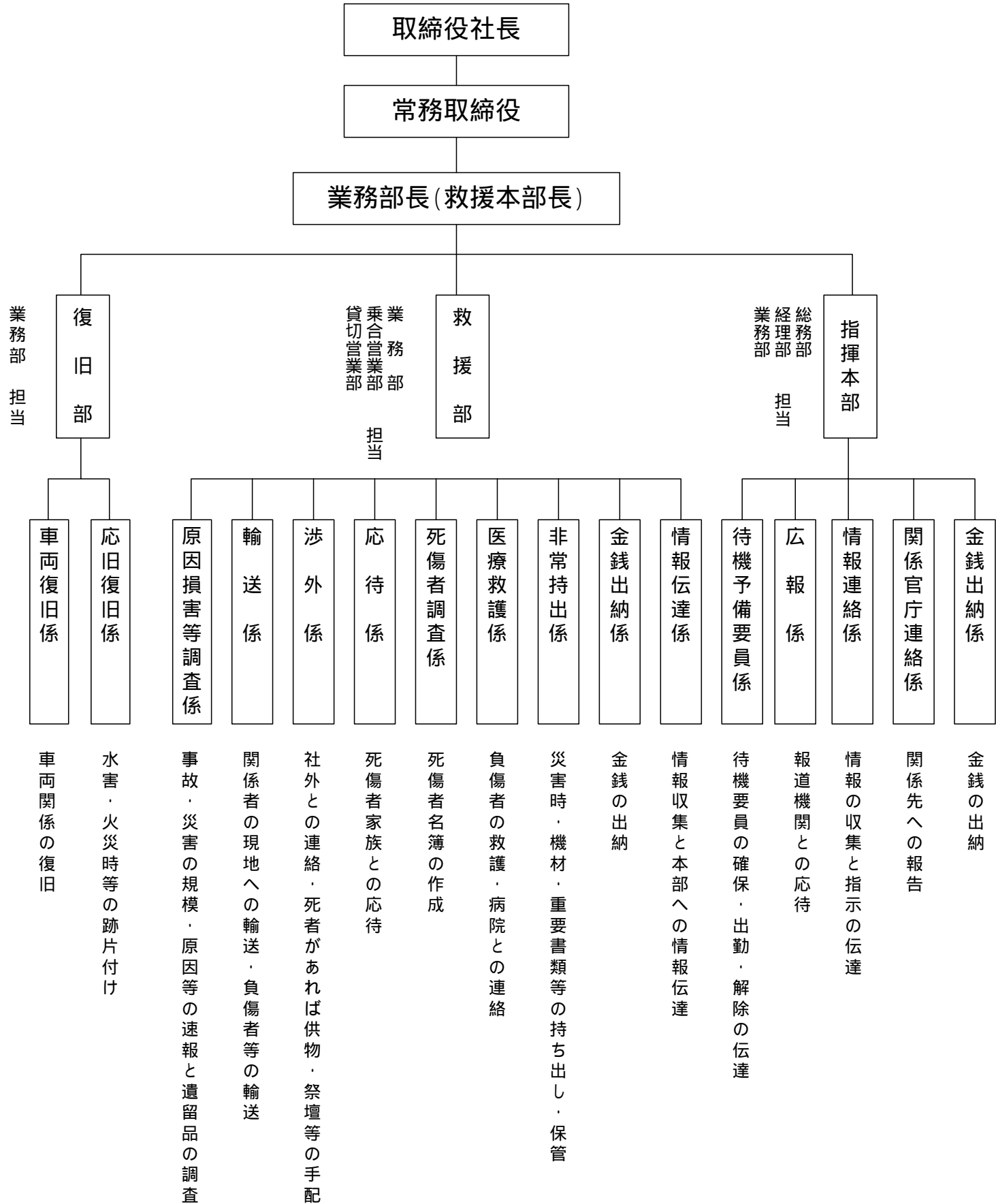
4．その他

以上の事項のほか、別途配布されている「安全作業心得」「地震心得帖」を参考に安全運行について万全の措置を講ずること。

非常災害・重大事故発生時の救援体制

(全社救援体制)

名 阪 近 鉄 バ ス 株 式 会 社



警 戒 体 制 早 見 表

	営業所警戒体制	営業部警戒体制	対策本部警戒体制
警戒区分	バスの運行に支障がでる虞があるとき	バスの運行に支障混乱をきたす虞のあるとき	最悪の被害（激甚災害）が予想される時
警戒責任者	営業所長 支店長（観光）	営業部長・業務部長	業務部長
災害警戒本部	—————	営業部長在営業所とする	業務部運行課名古屋営業所 または若森営業所
警戒員	運行担当所長、助役、事務職員、乗務員のうち、待機を命ぜられた者	営業部次長、課長、支店長、所長、その他営業部所属社員のうち待機を命ぜられた者	業務部に所属する社員のうち待機を命ぜられた者
	必要に応じ、支店および若森整備工場においても警戒員を配置	若森整備工場においても警戒員を配置	若森整備工場所属社員の配置、必要に応じ業務部以外の社員の応援を求める
警戒員の任務	災害の未然防止、災害発生時の対処、業務部長への報告、現地警戒およびターミナルでの乗務員の指導と車両の点検（一般乗合・高速乗合）運行状況の把握と指示の徹底		